



三稜会会報

津島高校同窓会



平成25年7月18日
第62号

発行 愛知県立津島
高校内三稜会
〒496-0853
津島市宮川町3-80
電話 0567-28-4158
発行人 横井 義一
編集人 桜木 琢磨

母校により良い環境を

三稜会会長

横井 義一



通学風景 街路灯

昨年の総会において会長を引き受けさせていただいて以来、どのような同窓会活動をさせて頂いたらよいか考えていました。周年記念行事の谷間の活動です。から派手さはありません。しかし、次の一二〇周年記念行事がより盛り上がるための準備期間にもなります。日々思案していた時、次のような新聞記事に自分の心境がピタッとあいました。「生きものは、次の世代を残すために生存しているわけだが、子供を産めばそれでいいというわけではなく、子供を社会的に一人前になるまで面倒見なくてはならない。でも、子育てを終えれば生きものとしての役割が終わっているのに、どういうわけかその後も命がある。」

人間の人生は三分されていて、大人になるまでは自分のために生きる。大人になったら子供が成人するまで子供のために生きる。子育ての役割が終わったら、これからの世代にいい環境を提供するために、残りの人生を使いたい。(井戸謙一氏 二〇一二年十一月九日中日新聞夕刊)

「この人に迫る」より

青春時代を育ててくれた津島高校。そのおかげで実りある人生を歩むことが出来ています。母校が、後輩たちのよりよい学びの場となるよう、卒業生の感謝を結集出来る三稜会を目指したいと思います。この理念・考え方をどのよう

に具体化したらよいか、私はそれが千賀前会長の「退任のご挨拶」(昨年の会報)の中にあると受け止めました。そこには、「一〇周年を機にできた新しい制度を今後も見直し、新しい伝統が作り続けられることを祈念して退任の挨拶」とあります。新しい制度は次のとおりです。

- ・三稜の精神を前面に出すため同窓会を三稜会と改名し、三稜育英会、三稜懸賞論文、三稜文庫、三稜賞などを新設。
- ・自習室Ⅱ興学館の新設と旧講堂の改築。
- ・地域貢献を目的とし、ホームカミングデーを兼ねて、総会を母校の体育館で開催し、懇親会は津島市文化会館を利用する。

などです。

これらの制度が育つことを念願され、特に懸賞論文については、「本校の伝統として定着することを希望します」とあります。

稲葉真弓文学賞

今年、特に力を入れたいと思ったのが、懸賞論文の充実化です。

昨年は他校五校から応募があり、ますます知名度が向上しました。テーマは「家族」でした。この論文がきっかけに、勉強に忙しい中これからの人生について考えることができた喜びや、幸せの源が「家族」にあることに気づくことができ、子としてまた将来親として、どのように生きていくべきかを真剣に書いています。

ています。良い作品が多く、例年以上の佳作を選びました。作品を読んでいて、子は親の背中を見て育っていることを思い知らされ、親として凛とさせられた思いです。懸賞論文が今後尾張地区の学力向上、人材育成に貢献できることを願い、活用しやすいよう別冊としました。

この制度の更なる発展を願い、審査委員長の稲葉真弓さんに提案し、「稲葉真弓文学賞・三稜会懸賞論文」とさせていただくことにしました。これを記念し九月三日の文化祭(三稜祭)に、津島市文化会館にて稲葉さんの講演会を開催します。

喜ばれています

・ある役員の発想から市と県に陳情し、正門前市道と東グラウンドの桜並木沿いの通学路に街路灯が設置されました。在校生特に定時制の生徒と周辺住民に喜んでいただくことが出来ました。(ホームページ参照)

・三稜文庫に寄贈いただきました図書を、生徒が自由に利用出来るように整理しました。引き続き、後輩の精神面の向上に役立つ図書の提供をお願い致します。

・学習室・興学館は、授業や自習などに変重宝されておりま

「三稜の誇りを胸に

――一〇年のその先へ――
母校の益々の発展を願って努力してまいります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

卒業生の皆様には、ご健勝で活躍のことと推察いたします。日頃は、本校の教育にご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

私はこの四月に、田中基夫前校長の後任として、本校に着任いたしました小川和夫です。どうぞよろしくお願いいたします。

本校の校訓は、「知・仁・勇」ですが、中国の古典に「何を以てか位を守る、仁と曰う。」とあります。

鉱石の金銀の割合を「品位」といい、また「品位」には見る人が自然に尊敬したくなるような気高さ、おごそかさという意味もあります。

作家の藤原正彦さんは「国家の品格」という本の中で、品格のある国家の指標として次の四つをあげています。

一 独立不羈（すなわち、自らの意思に従って行動できる独立国であること）

二 高い道徳（昭和の初め頃までは、日本に滞在した多くの外国人が日本人の道徳性の高さに驚いていました。）

三 美しい田園（美しい田園が保たれていることは、金銭至上主義に冒されていない、美しい情緒がそ

の国に存在する証拠です。）

四 天才の輩出（学問や文化、芸術などで天才が輩出していること。天才を輩出するためには、役に立たないものや精神性を尊ぶ土壌、美の存在、跪く心が必要です。）

さて、では品格ある

学校の指標とは何でしょうか。特色ある教育活動、思い出に残る風景（学校行事）、身だしなみやマナーではないでしょうか。

本校は、四十七分七時限授業、土曜学習会、国際理解コースを生かした最先端の英語の授業など、特色ある教育活動を行っています。

また、平成十二年度から長崎、平成十八年度から沖縄に出かけている修学旅行や、体育祭のマスコソットなどはい出に残る風景であり、

野球部の生徒を筆頭に大きな声で挨拶ができるなど、品格ある学校の条件を満たしていると思います。

これからも、学校の品格を高めるべく努力してまいりますので、卒業生の皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。



「同窓会員の皆様へ」

校長 小川和夫

三稜会幹事学年を終えて

母校を卒業して早三十年が過ぎ、様々な思いを胸に迎えた平成二十四年九月三十日、我々高校三十五回生が幹事として執り行いました、三稜会総会及び懇親会には同窓生の皆様の多くのご参加をいただき、誠にありがとうございました。

三稜会も、総会ではホームカミングデーと併せて津島高校で、懇親会は津島文化会館で行うスタイルが定着し、一つの新しい流れを作られた千賀前会長から横井新会長に引き継がれ、今後益々発展していくことと思います。

我々三十五回生も、先輩方から伝統ある『三稜の鍵』を、無事後輩へ引き継ぐことができたこと、ありがとうございます。

さらには、母校の興学館（自習室）にはプロジェクト図書管理システム一式を寄贈することができ、後輩たちの教育環境の向上に寄与できたことを喜んでおります。

今後母校から、世界で活躍できる優秀な人材が、多数輩出されることを心より期待しております。最後にありますが、毎年一度は三稜会総会・懇親会でお会いできることを楽しみにし、今後の三稜会の発展と、同窓生の皆様の益々のご活躍とご多幸を祈念し、お礼のご挨拶とさせていただきます。

高校三十五回生代表 水谷 弘正



「津島高校三稜会（同窓会）」のホームページで、随時情報が掲載されています。

URLは <http://www.sanryokai.com/index.html> ぜひ、アクセスしてみてください。

平成25年度 総 会

平成二十五年度の三稜会総会は、三十六回生が幹事を務めさせていただきます。

津島高校を卒業して早三十年。学年幹事を務めさせていただくことの責任の重さをヒシヒシと感じております。と同時に我々三十六回生が再会出来る場を設けていただいた三稜会に感謝しております。

同期の絆を大切に幹事学年として、横井新会長の下、務め上げねばと熱い思いが込み上げております。

本年も昨年同様、総会並びにホームカミングデーは津島高校三稜館、懇親会は津島市文化会館にて開催させていただきます。どちらの会におきまして、皆様にはご不便をおかけすることになりますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

また、全日制十六回生、定時制十三回生の皆様におかれましては、卒業五十年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。当日は懇親会にて思い出に残る一日になります。

総 会 に 向 け て

高校36回生代表幹事 馬 場 孝 道

りますよう務めさせていただきますので皆様のご来場を心よりお待ちしております。

さて、我々三十六回生は数年前の学年同窓会を機に幹事学年を迎えるため、心を一つにしてまいりました。昨年の『三稜の鍵』継承式で申し上げましたように、『三稜会総会・懇親会の準備を

楽しもう』を胸に進めております。三十六回生の仲間が、お互い信頼し合い、人間としても成長できたと感じております。この機会を与えてくださった諸先輩方に感謝しております。

三稜会が脈々と受け継がれている理由を知ることができ、その中にあることを誇りとし、幹事学年を務めさせていただきます。所存でございます。

三十六回生として全力で取り組んでまいります。何卒、皆様方のご理解をお願いいたします。

最後にいたしました、母校の益々の発展と、会員の皆様のご健勝を祈念し、挨拶とさせていただきます。

平成二十五年度三稜会総会次第

【総会】

日 時 平成二十五年九月二十九日(日)
場 所 津島高等学校三稜館
受 付 九時
付 所 津島高等学校三稜館

○ホームカミングデー
○総会(十時三十分)

一 開会の言葉・幹事学年代表あいさつ
幹事学年代表 馬場 孝道 (敬称略)

二 物故者への黙禱
会長あいさつ 三稜会会長 横井 義一

三 校長あいさつ 校 長 小川 和夫

四 津島高校勤続十年表彰 三稜会会長 横井 義一

五 三稜会懸賞論文表彰 三稜会会長 横井 義一

六 議長選出・あいさつ 議長 横井 義一

七 議 事

八 平成二十五年度役員選出

九 閉会の言葉 津島高校音楽部

○記念演奏(二十分)

三稜会合同懇親会

日 時 平成二十五年九月二十九日(日)
場 所 津島市文化会館
受 付 十二時
付 所 津島市文化会館

○記念写真撮影
卒業後五十年会員(高十六回生・定十三回生) 十二時四十五分より

○合同懇親会

一 開会の言葉 二 会長あいさつ

三 乾杯 四 卒業50周年会員表彰式

五 校歌斉唱 六 『三稜の鍵』継承式

七 次年度幹事学年(37回生)あいさつ

八 万歳三唱 九 閉会の言葉

当日は送迎バスがあります。(津島駅→津島高校→文化会館)

平成25年度 三稜会役員等(案)

相談役

常任理事

児玉甚之助	津田はるみ	中 44	津坂 園子	高 15
佐藤 嘉行	高 7	片岡 静子	高 19	(会計)
大橋 忠行	高 9	稲葉 真弓	高 20	
後藤 務	高 13	服部 貴	高 22	
田中 秀彦	高 13	青山 道男	高 24	
千賀 修一	高 14			
桜木 琢磨	高 14			
渡辺 勝	高 14			
浜田 一郎	高 18			
伊藤 文郎	高 24			
横井 五六	高 27			

理事

岡田 貞雄	高 6			
大島 博	高 20			
東海 広光	高 21			
寺田 百合	高 23			
石川 鑛一	高 25			(会計)
長谷川 実	高 29			
野田 道雄	高 31			
神田 昭雄	高 32			
伊藤 憲司	高 33			
岩田 政久	高 34			
水谷 弘正	高 35			
伊藤 紀彦	高 36			

顧問

松岡 貞夫	高 12			
佐藤 忍	高 17			
横井 義一	高 15			
会長				
副会長				
水谷 正照	高 20			
半田 貢	高 20			
北角 浩一	高 32			

◎は新役員 ○は役職変更

監事

鈴木 賢一	高 10			
太田 睦	高 23			
伊藤 一	高 25			(教頭)
事務局長				

三稜会校内事務局

伊藤 泰一	高 25	黒澤 康敏	高 34
伊藤 光	高 26	立松 秀樹	高 35
水谷 忠司	高 26	橋本 昇	高 36
山田 潤	高 27	山本 治	高 44
平井 章博	高 29		
服部 孝子	高 33		
石田 伸夫	高 33		
田中 道徳	高 33		

■ 平成25年度 三稜会事業計画(案) ■

- (1) 第1回三稜会理事会・幹事会 平成25年6月1日(土)
 ・事業報告 ・事業計画
 ・会計(三稜会・三稜育英会)報告 同監査報告
 ・予算案 ・役員改選
 ・総会に関すること(幹事学年36回生)
 ・その他
- (2) 校内事務局打合せ 平成25年4月
- (3) 三稜会会報(第62号)の発刊 平成25年7月予定
- (4) 平成24年度三稜会懸賞論文審査
 平成25年5月25日(土) 発表 平成25年6月
- (5) 平成25年度稲葉真弓文学賞・三稜会懸賞論文募集
 10月要項配布予定
- (6) 平成25年度総会並びに懇親会
 (幹事学年: 高校全日制36回生・定時制33回生)
 平成25年9月29日(日)10時半より
 総会・ホームカミングデー(会場: 津島高校三稜館)
 ・役員改選
 ・津島高等学校勤続十年表彰
 ・平成24年度三稜会懸賞論文表彰
 懇親会 (総会後 会場: 津島市文化会館)
- (7) 第2回三稜会理事会・幹事会 平成26年2月予定
- (8) 三稜会入会式(全日制第66回生)
 平成26年2月27日(木)

■ 平成24年度 三稜会会務報告 ■

- (1) 第1回三稜会理事会・幹事会 平成24年6月2日(土)
 ・事業報告 ・事業計画
 ・会計(三稜会・三稜育英会)報告 同監査報告
 ・予算案 ・役員改選
 ・総会に関すること(幹事学年35回生)
 ・その他
- (2) 校内事務局打合せ 平成24年4月
- (3) 三稜会会報(第61号)の発刊 平成24年7月20日
- (4) 三稜会懸賞論文募集 10月要項配布
- (5) 平成24年度総会並びに懇親会
 (幹事学年: 高校全日制35回生・定時制32回生)
 平成24年9月30日(日)
 総会・ホームカミングデー(会場: 津島高校三稜館)
 ・役員改選
 ・津島高等学校勤続十年表彰
 ・三稜会懸賞論文表彰
 懇親会(総会後 会場: 津島市文化会館)
 ・記念撮影(卒業後50年会員[高15回・定12回])
 ・卒業後50年会員表彰[高15回・定12回]
- (6) 第2回三稜会理事会・幹事会 平成25年2月9日(土)
- (7) 三稜会入会式(全日制第65回生)
 平成25年2月28日(木)

平成24年度 三稜会(一般会計)収支計算書(案)

自平成24年4月1日
 至平成25年3月31日

収支予算書(案)

自平成25年4月1日
 至平成26年3月31日

収入の部

(金額単位: 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	25 年 度 予 算 額
入 会 金 収 入	1,690,000	1,680,000	10,000	1,690,000
繰 越 金 よ り	0	0	0	100,000
そ の 他 の 収 入	400	388	12	400
収 入 計	1,690,400	1,680,388	10,012	1,790,400

支出の部

会 報 費	800,000	985,614	- 185,614	1,000,000
慶 弔 費	60,000	0	60,000	60,000
生 徒 記 念 品 費	150,000	67,830	82,170	80,000
会 議 費	60,000	19,573	40,427	50,000
事 務 費	500,000	379,768	120,232	500,000
そ の 他 の 支 出	120,400	793,145	- 672,745	100,400
支 出 計	1,690,400	2,245,930	- 555,530	1,790,400

当 年 度 収 支 差 額	0	- 565,542	565,542	0
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	3,538,259	3,538,259	0	2,972,717
繰 越 金 支 出	0	0	0	100,000
次 年 度 繰 越 収 支 差 額	3,538,259	2,972,717	565,542	2,872,717

(円)

三稜会(一般会計) 貸借対照表

平成25年3月31日現在

科 目	金 額
I. 資産の部 普通預金 普通預金 三菱東京UFJ銀行 津島支店	2,972,717

三稜文庫への寄贈のお願い

同窓生の皆様がお読みになった本の中で、在校生の「心の栄養になるような本」の寄贈をお願いいたします。

皆様のご厚意は三稜文庫に収蔵し、生徒が春・夏・冬休みなどに何か1冊を読むように呼びかけています。

在校生が、強く心魅かれた本は、そのまま持ち続けても良いことにしました。多くの皆様のご協力をお願いいたします。

- ・学習参考書、進学案内などは避けてください。
 - ・目安として10年以内に発行され、高校生の人格向上に役立つ内容のものをご選書ください。
- 津島高校内三稜会事務局までお送りください。



✧叙勲受章者の皆さん✧

本校卒業生は各界でご活躍され、叙勲を受けられた方々も大勢いらっしゃいます。永年のご功績に敬意を表し、三稜会会報でご紹介させていただきます。(他にも叙勲を受けられた方がいらっしゃると思いますが、全部をお載せできずに申し訳ございません。ご本人やご家族、周囲の方々でぜひ三稜会事務局までお知らせください。)

25年春 旭日双光章
墨 宏 様
(高校14回生/昭37年卒)
保健衛生功勞

平成24年度 一般財団法人三稜育英会 収支計算書(案)

自平成24年4月1日
至平成25年3月31日

収支予算書(案)

自平成25年4月1日
至平成26年3月31日

収入の部

(金額単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	25 年 度 予 算 額
110 周年記念事業余剰金	0	0	0	0
三稜会祝賀会からの寄付金	800,000	1,787,316	－ 987,316	1,200,000
三稜文庫募金の寄付金	100,000	104,733	－ 4,733	100,000
松の木募金からの寄付金	100,000	78,933	21,067	80,000
周年記念事業積立金からの寄付金	0	0	0	0
三稜懸賞論文後援者からの寄付金	400,000	400,000	0	400,000
繰越金より	0	0	0	1,918,500
その他の収入	1,500	1,540,255	－ 1,538,755	1,500
収入計	1,401,500	3,911,237	－ 2,509,737	3,700,000

支出の部

三稜会総会準備金	0	0	0	500,000
三稜文庫	200,000	0	200,000	200,000
学校クラブ活動に対する補助	1,000,000	965,759	34,241	1,000,000
三稜懸賞論文	500,000	739,530	－ 239,530	800,000
三稜賞	100,000	43,415	56,585	100,000
学校設備等の改善援助金	1,000,000	920,850	79,150	1,000,000
その他の支出	101,500	99,514	1,986	100,000
支出計	2,901,500	2,769,068	132,432	3,700,000

当年度収支差額	－ 1,500,000	1,142,169	－ 2,642,169	0
前年度繰越収支差額	15,773,263	15,773,263	0	16,915,432
繰越金支出	0	0	0	1,918,500
次年度繰越収支差額	14,273,263	16,915,432	－ 2,642,169	14,996,932

(円)

一般財団法人三稜育英会 貸借対照表

平成25年3月31日現在

科 目	金 額
I. 資産の部	
普通預金	
普通預金 三菱東京UFJ銀行 津島支店	16,915,432

恩師のたより

人生は「奇蹟」の連続ではなく、「軌跡」そのもの

一組担任

宮崎 鏡次 先生

今年で退職を迎え、現在は再任用として杏和高校にお世話になっていきます。退職にあたり、最初に卒業生を送り出した学年の皆様は、「祝う会」をやっていたきありがとうございます。この場をかりて、お礼を申し上げます。新任以来十四年間、津島高校にお世話になりました。教員生活の最初に、良き生徒、良き



先輩、伝統の校風に接することができたことは、ふりかえると私の教員としてのスタンスを形成する上で、強いインパクトを受けました。津島高校の伝統は、自ら考え行動する力を大事にすることだと思っています。社会へ出てから多くの卒業生の活躍をみるにつけ、これが伝統の校風の力なんだなど、外からみるにつけ感じることで、これからの良き伝統が受け継がれるものと思います。

さて、私もひとくぎりを迎え、何か新しいことに挑戦したいと思っています。冒頭の言葉は、「種田山頭火」の晩年の言葉だそうです。還暦は人生の節目ですが、これからも自分なりの「軌跡」を描いていきたいと思っています。最後に同窓会生皆さんの健康とさらなる「軌跡」を祈念して近況報告に代えたいと思います。

退職後の日々

三組担任

山本 則子 先生

定年退職してはや七年の歳月が過ぎました。健康に恵まれ毎日元気に過ごしております。

三十六回生は私にとって、

二回目の三年担任、にもかかわらず、力量不足で目の前の教科や進路指導に追われ、クラスの人ひとりとじつくり向き合うことができず、あっという間に卒業の日を迎えてしまいました。それでも生徒の皆さんの優しい笑顔や担任団の先生方の経験豊かなアドバイスに支えられ、教師として成長できたと感謝しております。



さて、今は仕事を離れ、時間がたつぷりあります。毎朝、季節の移ろいを感じながら、一万歩以上歩いています。夜はスポーツジムに通い、ヨガと水泳を続けています。水泳はコーチの指導を受け、今ではクロール一キロ、メドレーで百メートルは泳ぐことができますようにになりました。

また、退職後絵画教室で水彩画を、通信講座で水彩画を

習っております。なかなか上達はしませんが、年一回、作品展に出品しております。

さらに、年数回海外に出掛け、世界の多彩な文化・自然遺産や美術館・博物館を巡り、視野を広げ、命の洗濯をしています。昨年、長年の念願であったオーロラをカナダの北極圏で見ることができたのは、夢のような体験でした。満天の星空に舞う宇宙の神秘に深く感動しました。

このように私にとっては今が青春、歳だからと諦めないで前向きに生きていこうと思っております。

地学の教師その後

五組担任

森 勇一 先生



三十六回生の皆さんこんにちは。津島高校在職中、私は地学の教師でしたが、しばらくして愛知県埋蔵文化財センター勤務となり、遺跡発掘の仕事にたずさわりました。そこで土の中に眠るムシたちの

存在を知り、これをきっかけに私の教員生活は大きく変化しました。皆さんの知らない別の森先生だと思えますので、少し紹介しておきます。センターから出るとき、私は夜間高校を希望しました。明和高校校定時制では生物を教えました。教科担当の教師というより、そこでは生徒諸君の心のケアが主な仕事となっていました。教師としての力量を試される毎日でした。

十二年間、私は勤務を要しない昼間の大半をムシを調べる時間に充てました。土に埋もれた昆虫化石を調べ、先史・歴史時代の古環境やヒトがどのように暮らしてきたか追究してきたのです。この成果は、「ムシの考古学」（雄山閣）に著しましたので、興味ある諸君は私の名を語り、出版社（〇三・三二六二・三二三一）より特別価格で入手してください。

現在は、金城学院大学にて教師をめざす学生に理科教育法などを教えています。そして、しばしば森家に登場する二才の孫に、顔中「アンパンマンシール」を貼られていくくり回されるおじいちゃんをも演じています。

心は現役続行中

六組担任

河合 利昌 先生



三十六回生の皆さんの卒業後、津島高校で四年間、津島北高校で十五年間勤務して定年を迎えました。それから十一年目になります。定年後も津島北高校で非常勤講師として五年間勤務しました。今は、海翔高校で七年目、一宮高校定時制で八年目の勤務を継続中です。

女子テニス部の外部コーチを退職後も継続中。一昨年の県総体は団体戦三位で東海大会へ、昨年の個人戦は全国大会へ、県新人戦団体三位、今年は東海大会に個人戦で二チーム出場した。部活動指導で毎日が充実しており、心は現役続行中です。

諸君とは津島高校へ転動して二年次からです。男子部の顧問になり、尾張支部新人戦の団体戦で女子は一回戦敗退。女子部員に指導を頼まれ秋から相談に乗り部活動中心の生

活でした。翌年春に英語と数学の担任が新設高に転出され、三年の担任となった。「国公立大学に十名は入れる」と宣言した。春の総体支部三位、県大会三位に入賞。やる気十分の部員と個性豊かな六組の生徒で就職も進学も宣言が効を奏した。この体験が私の後半三十年の支えとなった。津島高校の六年間は本当に充実していた。三年の担任を四回、テニスでは男女各二回全国大会に連れていってもらった。環境が人を育て、自らが環境を変えようとする気持の継続こそ、大切だと心して生活したい。

而立

七組担任

伊藤 正隆 先生



われ在りと 世にしめしより
而立なる 今ぞもみじの 錦なるらん

皆さんが歴史と伝統ある津島高校を卒業して三十年です

か。歴史とか伝統は卒業してから分かるものでしょうが、年齢は四十八。人として、男として、女として、夫として、妻として、父親として、母親としてまさしく盛年をお迎えなのですね。

今懐かしくあなたの方の卒業時の名簿を見ています。某君を朝のST後廊下へ呼び出し、大きな声で怒った。彼は身長が高く随分上を見上げながら話をし、彼は見下ろしながら素直に指導に従ってくれた。某さんたちは当時の共通一次試験に失敗し、泣き崩れていましたね。担任である私の不徳の致すところであり、十分な進路指導をしてあげられず申し訳ない。そんなあなた方の何人かの結婚式にお呼びいただいて、あなたたちの晴の姿に感涙したりしました。

教員団の皆さんも何と個性の強い集団だったのでしょうか。年賀状の遣り取りは、この学年の皆さんとが最も多い。個性派集団の皆さんによって一教員を育てていただき、ただただ感謝です。

同じ干支というのも縁だと思っていました。今年度で退職を迎える私にとって、あなた方に出会えたことは、最大の喜びでした。ありがとう。

携帯って何？

八組担任

杉原 修 先生



私の唯一の自慢は携帯を持っていることだ。携帯なしでどうやって暮らしていけるのと聞かれることが多いが、どうして携帯がいるのか理解できない。携帯なしでは、一秒も生きられない、まるでスキューバの酸素ボンベになっ

てしまっている人が多い。電話で充分用が足せる。手紙もあるのではない。余りに便利になりすぎて、かえって余裕がないのではない。便利の行き着く先は不便でしかないのではないかと思う。

たまにはメール（一度もしたこともないし、できない）を止めて、誰かが、「雲は天才である」と言ったか、雲を木曾川の土堤に寝そべって一日ボンヤリ見ているのでもいいのではないか。

現在は、便利に振り廻され

て逆に時間がなくなってしまうのではない。もっと本を読んだり、アナログの時間が必要で、デジタル化した世の中は息が詰まってしまっているのではない。

現在も英語教員をしているが、結局、英語を身につけるには地道な努力を続けるしかないと思う。いきなり知識を「pad」する方法はまだ、これからはないと思う。

最後に「Never say die」頑張れという意味だが、大きな世の中ストレス、何かあっても、死ぬことのないよう。自然に親しみ、自然の声を聞き豊かさとは何か一度考えてみてください。

高校三十五回生担任

- 一組 宮崎 鏡次
- 二組 橋本 昌之(故人)
- 三組 山本 則子
- 四組 真弓 和久
- 五組 森 勇一
- 六組 河合 利昌
- 七組 伊藤 正隆
- 八組 杉原 修
- 九組 伊藤 篤哉
- 十組 内田 俊弘(故人)

母校の近況報告

国際理解コースが設置されて
七年目となります。一年生の英
語合宿、二年生の海外研修も本
校の特色ある取り組みとして定着
してきました。なお、今年度か
ら平成二十九年度まで「あいち
スーパージングリッシーハブス
クール事業」指定校にも選定さ
れました。グローバル人材の育
成を目指した取り組みを今後一層
進めてまいります。

また、理数教育の充実を図る
べく、昨年度からSPP（サイ
エンス・パートナーシップ・プ
ログラム）にも取り組んでいま
す。昨年度は生物分野について
今年度は物理・化学分野につい
て、大学教授や企業の研究者の
講義を受けたり、大学で実習を
行うなど、知識基盤社会を担う
人材としての教養を深めていま
す。

六月に三重県で開催された、
東海高校総体に陸上競技部から
四〇〇mに中山聖君（三年）、四
×四〇〇mRに池山佑太君・石
田大貴君・神保翔一君・中山聖
君（四名とも三年）が、ソフト
テニス部からは櫻木彩可さん・
中村美咲さん（二名とも二年）
が出場しました。このうち、陸
上競技部の四×四〇〇mRでは
決勝八位という結果でした。

▼最近4年間卒業生動向

		平成25年	平成24年	平成23年	平成22年
卒業者数	女	143	178	139	155
	男	318	317	311	317
大学進学	女	115	140	114	128
	男	268	267	259	268
短大進学	女	12	15	12	7
	男	12	0	1	1
専修・専門学校	女	13	18	12	14
	男	18	23	16	18
浪人	女	3	2	1	4
	男	20	8	23	21
就職	女	0	1	0	2
	男	0	0	0	0
家事・その他	女	0	2	0	0
	男	0	0	0	0



▼平成25年 大学合格者状況

	大 学 名	平25		大 学 名	平25		大 学 名	平25
国 公 立	北 海 道 大	1	私 立	青 山 学 院 大	1	私 大 学	名古屋商科大	2
	北 見 工 業 大	1		創 価 大	4		名古屋文理大	1
	北海道教育大	1		東 京 理 科 大	1		名古屋芸術大	9
	秋 田 大	2		日 本 大	1		南 山 大	106
	山 形 大	1		中 央 大	1		日 本 福 祉 大	40
	富 山 大	3		東 海 大	1		人 間 環 境 大	2
	金 沢 大	1		金 沢 工 業 大	3		日赤豊田看護大	2
	福 井 大	6		岐阜聖徳学園大	5		藤田保健衛生大	4
	静 岡 大	2		中部学院大	1		星 城 大	1
	岐 阜 大	8		岐阜医療科大	1		名 城 大	138
大 学	名 古 屋 大	4	立	愛 知 大	207	大 私 立	鈴 鹿 医 科 大	6
	愛知教育大	6		愛知医科大	1		四日市看護大	1
	名古屋工業大	5		愛知工業大	66		京 都 産 業 大	6
	三 重 大	16		愛知淑徳大	115		同 志 社 大	14
	滋 賀 大	9		愛知学院大	97		立 命 館 大	36
	広 島 大	1		愛知学泉大	3		龍 谷 大	2
	島 根 大	3		愛知工科大	1		関 西 大	5
	鹿 児 島 大	1		愛知東邦大	1		関西学院大	1
	秋田県立大	5		桜花学園大	6		近 畿 大	2
	前橋工科大	1		金城学院大	12		そ の 他	14
学	高崎経済大	1	学	修 文 大	5	私 立	私 立 大 計	1084
	都留文科大	1		相山女学園大	37		岐阜市立女短	7
	福井県立大	4		大 同 大	10		岐阜保健短	1
	岐阜県立看護大	1		中 京 大	6		名古屋学芸短	1
	愛知県立大	7		至 学 館 大	1		名 古 屋 短	3
	名古屋市長大	2		中 部 大	74		名古屋文理短	1
	滋賀県立大	2		東海学園大	8		名古屋女子大短	1
				同 朋 大	1		名古屋柳城短	2
				名古屋学院大	2		三 重 短	6
				名古屋外国語大	1		至 学 館 大 短	1
国 公 立 大 計	95		名古屋女子大	10		南 山 大 短	1	
			名古屋学芸大	9		そ の 他	2	
					短 大 計	26		

編集者より一言

家族といえは親子。その絆は風揚
げにたとえられる。親は子供を風
に見立て空高く上げようとする。父
親が糸を持ち走り出すと母親が風
手を離す。二人は見上げるがすぐ
落下。落ちた所へ駆け寄って不具
合を繕い、これを繰り返す。父親は、「高
く飛ぶんだよ」とまた走る。風を受
けると、風は一気に飛び上がり、父
親が糸を調整するだけで安定する。
風が上空に舞い上がると糸は切れて、
半分は手元に、残りは風に。絆の字
を糸偏に半分と書くのはこのことか。
今年度は「家族」をテーマに懸賞
論文を募集。反響は新会長にとって
欣快で、秀逸作品を別冊配布した。
選者名を冠する「稲葉真弓文学賞」
の創設、記念講演も決定。生徒は純
真無垢の感性を起点とし目指すもの
を見失わず、社会で活躍してほしい。
卒業式の名曲「仰げば尊し」が消
えて久しいが母校では斉唱している。
この歌ほど、志高きと真心で教えた
恩師との愛惜や母校を慕う伝統の曲
は他にない。台湾の小学校でも同じ
スコットランド民謡で、その題名は
「青青校樹」という。私は、東日本
大震災に二百億円を寄付という台湾
の破格的支援に驚嘆。日本との絆は
戦前の台湾で農業水利事業に大きな
貢献をした八田與一の功績のほか、
原詩よりも美しい歌詞こそ、卒業時
における道徳教育のおかげかと胸が
熱くなる。

会報編集者 桜木 琢磨

三稜会会報別冊



懸賞論文 特 集



平成25年7月18日
第62号別冊

発行 愛知県立津島
高校内三稜会
〒496-0853
津島市宮川町3-80
電話 0567-28-4158
発行人 横井 義一
編集人 桜木 琢磨

「懸賞論文特集」の 別冊化について

三稜会懸賞論文も三年目となり、西尾張地区の多数の高校から応募がありました。この二年、審査に携わり多くの作品を読ませていただき、レベルの高い素晴らしい作品の多さに驚きました。

優秀作品を多くの人に読んでいただき、親子の語らいの機会となり、より幸せな家庭づくり役に役立てていただくとができるのではないかと思います、読みやすくするため別冊にいたしました。

懸賞論文制度は、本年より「稲葉真弓文学賞」として新しくスタートします。これが母校の新しい伝統として発展することを願います。

会長 横井 義一

平成24年度 三稜会主催 懸賞論文選考結果について

テーマ 『家族』

応募総数 398名 (応募高校 津島、清林館、津島東、美和、佐織工業、稲沢)

入賞作 15名

〈最優秀賞〉 1名	清林館高校 2年	布田 章乃さん		
〈優秀賞〉 2名	津島高校 3年	平井菜々美さん		
	津島高校 1年	後藤 由樹さん		
〈佳作〉 12名	津島高校 3年	脇田 綾子さん	大橋 涼さん	
		古谷 瀬菜さん	服部 愛さん	
	佐織工業高校 1年	小久保茉美さん		
	津島高校 1年	加藤 茜さん	伊藤 咲季さん	
		吉川 萌香さん	内藤可南子さん	
		石原 涼子さん	八木萌百佳さん	
		加藤 萌衣さん		(表記学年は応募当時のもの)

入賞された皆さん、おめでとうございます。また、ご応募いただいた皆さん、ありがとうございました。なお、表彰式は以下の通りです。

日時 平成25年9月29日(日) 午前10時30分 津島高等学校三稜会(同窓会)総会
場所 津島高等学校三稜館(体育館)

- 本年度のテーマは幹事学年により検討中であり、総会にて発表されます。
- 過去3回の最優秀賞と優秀賞作品は、三稜会のホームページに掲載してあります。

【協賛団体】 (株)ヨシヅヤ
虎ノ門法律経済事務所
(株)日本一ソフトウェア

クローバーTV・エフエムななみ77.3 MHz
(株)三和スクリーン銘板 (株)原ネームプレート製作所
協和交易(株)

(新規協賛団体を募ります。)

●最優秀賞●

「家族」

清林館高等学校

二年 布田 章乃



家族とは、安らぎであり、かけがえない存在だとよく言われますが、私は、家族とは自分そのものであると思っています。

私の家族は、母と私、妹と弟の四大家族です。母は一年中休みなく働き、化粧をする事もなく、いつも同じ服です。家は古い公園で、台所兼居間で、家族四人ギューギューになりながら過ごすのは、本当に幸せな時間で、私の大好きな場所だけれど、まわりの友達の家庭と比べれば、やはり何か差があるような気がして、少しコンプレックスを感じていました。

高校一年生の秋、中学の頃から憧れていた海外留学の話を、母に言い出せずにはいきました。家族にとって大きな負担になるとわかっていたし、どれほど憧れても、私には無縁の世界で、現実にはなり得ないと思い、諦めていたからです。けれど、母は、その事を担任の先生から聞き、私に留学をすすめたのです。あまりにも意外すぎて、経済的な面での心配しか思いつかない私に、母はまるで違う話をしました。自分を助けるのは、自分しかない。これから

する努力や苦勞、全ての経験が、いつかあなたを助けてくれる。そして、それは、結果的に母を安心させる事になり、また同時に、妹弟を勇気づけ、伸ばす事につながるというのです。家族を大切に思うなら、まずは、自分を大切に生きてほしいと言われました。私の夢は、家族の夢になり、私の悔いは、母の悔いになる。「あなたは私なんだよ」と言う母の言葉に大きな衝撃を受けました。頭をガンと殴られたような、ギョッと抱きしめられたような、何か大きなドアが、目の前で、パァッと開いたような…。私は一人で生きているのではないのだと深く感じた瞬間でした。その後、私は一年間、カナダの高校に留学しました。絶対にムダにはできないという強い気持ちを常に意識して行動しましたが、実際は、何をやっているんだかわからない時間をたくさん過ごしました。全てが英語で行われる授業に慣れないのはもちろん、日常的な事すら何もできない。そして、各国から集まってきている留学生達の発音の良さや、自己主張の強さに気後れして、言葉が出ない。無駄に時間を過ごしているのではないかとという焦りとコンプレックスばかりが大きくなっていきます。そして、落ち込むたびに顔を出すホームシックが私を苦しめました。私は特別にダメな子だ、日本へ帰りたいと何度も思いました。

でも、後戻りもできない事もわかって

ていたし、諦めるのも、負けるのも嫌でした。まずは、自分を変える努力から始めなければなりませんでした。気持ちを奮い立たせて、ゆっくりと前へ進む。毎日、何かひとつ進む。今日はひとつ。明日はふたつ。自分のため、家族のために。

何度も涙はありましたが、徐々に楽しくなり、手応えを感じる事が多くなっていきました。友達もたくさんでき、行きつけのカフェや、お店もでき、日本にいる時のように、自転車やバスでどこへでも行けるようになって、いつの日か、何も意識しなくても、楽しい毎日をおくれるようになっていました。

留学の経験を通じて、手に入れたものは、語学だけではなく「自信」です。できる自信ではなく、「ダメでもなんとかする自信」です。私には、泣いていても進んで行く強さがある事を知りました。きつと、どこへ行っても、頑張れると思います。私はいろいろなコンプレックスが消えて、以前よりずっと、自分を好きになりました。これまで歩んできた自分の人生までも、キラキラと輝いているように思えます。そして、不思議と、私の家族まで輝いているように感じます。狭い家も、年と同じ服の母も、泣き虫の妹も、生意気な弟も、最高に素敵です。世界一の家族だと心から思っています。

思春期の少年は、親と一緒にいるところを友達にあまり見られたくないも

のです。でも、大人になると、親の話誇らしげにしたり、優しく手をひいて歩くようになるのは、この原理ではないでしょうか。きつと年齢がきたからというだけの事ではなく、様々な経験をし、成長して、自分に自信がつく事で、自動的に親の事も自信がもてるようになるのだと思います。

このような事からも、家族と自分は直結していると言えます。「あなたは私」と言った言葉のとおり、家族とは、自分そのものであると思います。

私はまだ、用意された環境の中でしか、努力も苦勞もしていません。この先、色々な経験をして、良い挫折もして、その中でまた何かを見つけ、自分が磨かれていけばいいと思っています。そして、今よりもっと自分を好きになり、家族を好きになっていくに違いありません。

昨年、妹が私を追いかけて、同じ学校に入学しました。そして、この冬、ヨーロッパに渡り、イギリスやフランスの歴史や文化を学びました。妹もまた、苦戦しながらも、日々努力をして前進しています。そんな妹の姿を見ると、まるで自分が体験しているかのように、胸が高鳴るこの気持ち。まさに、「あなたは私」。妹もまた、私そのもののなのです。私の体はひとつしかないけれど、家族の人数分の夢を見て、ドキドキ、ワクワクしています。

●優秀賞●

「家族」

愛知県立津島高等学校

三年 平井菜々美



家族は、私にとって大変かけがえない存在である。しかし、日々の生活の中で、家族がそばにいるということがあまりにも自然であり、その存在の意義や価値について、改めてじっくりと考える機会はなかった。

現在、私が学校や普段の生活を楽しく過ごしているのは、家族という「快適な基地」があって、行き帰りがいつでも可能だからである。父は普段仕事で忙しく、最近姉や私の帰宅時間もまちまちで、時間のリズムもバラバラになるが、コミュニケーションが不足しているとは思わない。母は、私たち子供と同じ空間にいることを強く望み、小さい時から、放課後の勉強や遊びなど、生活のほとんどをリビングルームに集約する習慣づけをしてきた。朝が早く帰宅も遅い父は、家で過ごす時間が無いにもかかわらず、子供たち相手に一生懸命無駄話をしようとしている。しかし、べったりくっつき合う「友達感覚の親子」ではなく、夫婦と子供たちとは明確に区別されていて、「親は偉い」といった上下関係を重視している、

という感じである。

「三世帯が全員で、決まった時間に食事を摂る」という昔風の家に育った母は、自分の家庭においてもそれを崩したくないと思い、バラバラに食事をすることをさせない。普段は、私、姉がそろそろまで夕食を待つて三人で食事をし、父の休日には、許す限り家族四人全員での食事を心がけている。また、我が家では、食事中に携帯電話を見ること、触ることを禁じている。テレビを見ることも昔は厳しかったが、携帯電話は特に厳しい。それは、食事のマナーの基本であるとともに、注意がバラバラになるのを防ぐ意味がある。外で食事をしていて見かける光景だが、家族が食事をしながら携帯電話を手放さず、メールや着信があるたび、食事や会話が中断する。食事中の携帯電話の使用は、お互いに迷惑にならないければ大丈夫と思っているのだろうが、何か見えない壁ができて、確実に注意が外に向いてしまっている。私たちにとって、とても便利な携帯電話、パソコン、ゲームなど、さまざまなアイテムは、良い反面、家族間のコミュニケーションを奪い、親が子供のことを知りにくくする行為であることに間違いなと思う。これからの家族は団らんもできなくなるかもしれないのかなと、不安になる。

また、最近のニュースでよく、家族

間での悲しい事件を耳にすることがある。近年の統計などを見ると、家族間でのトラブルは増加しているそうだ。背景の一つに、核家族におけるコミュニケーション不足が考えられる。

昔の日本は、私の母の育った家庭のように大家族が多く、父親を頂点として、しっかりとした家族の決まりがあった。しかし、核家族化が進んで、この制度は崩壊しつつあると思う。なぜなら、今の父親は仕事に忙しく、不景気の中で生活費を稼ぐために心や時間に余裕が無くなり、子供たちに接する時間が

少なく、母親だけが子供のしつけや学校での問題に関わることになり、相談する祖父母もすぐ近くにいないために、考え方が偏ってしまうからだ。また家族の数が少なくなったため、挨拶や会話の数も減った。さらに、子供たちが携帯電話を持ったり、インターネットを使うようになると、直接目を見て話をするのが減り、問題が起きたときでも、インターネットで簡単に検索して解決してしまえるので、人と繋がらなくともよくなった。そこで、他人や家族との希薄化が起こって、あまり人と関わりあいたくなくなつて、お互いを気遣ったり、助けようという気持ち

が弱くなつてきて、ただむかついたというだけで、親に暴力を振るったり、子供に手を上げてしまつたりするのはないだろうか。少子化、高齢化、不

況などが進み、その流れは避けられない。また、だんだんメディア機器の力が押してきて、個人の時間が増える。そしてそれぞれが孤立化していく。これを少しでも食い止めるために、もっと気持ちにゆとりを持つたり、あえてコミュニケーションをとることが大切だと思ふ。笑いあったり、会話を増やしてみたり。思っていることを伝えないと、家族といえども分かり合えない。素直に言い合うことで、意思の疎通を図るべきだ。そして家族の価値というものをもう一度見直す必要がある。

全体を通して、家族には、「コミュニケーション」というキーワードが一番大事だと思つた。いつもそばにいて思っている家族だが、もうあとどれくらい一緒に過ごせるか分からない。積極的に会話をしたり、同じ時間を共有するなど、これからは家族の一員として、よい状態を維持するために何ができるかを考えて、一緒に過ごす一瞬一瞬を大切に生きていきたいと思ふ。

もしも将来、私に新しい家族ができて、一番にコミュニケーションを大切にしたい。社会は大きく変わつていくであろうが、今、父母が自分にくれていることを継承していきたいと思ふ。そして、生まれてくる子供にも、家族とは本当にかかけがえない存在だ、ということをつかちてもらいたい。

●優秀賞●

「ちいばあちゃん」

愛知県立津島高等学校

一年 後藤 由樹



幼い頃の記憶。「おかえり。」と優しい笑顔で迎えてくれた祖母。私はそんな日々を今でも鮮明に覚えている。私はそんなちいばあちゃんが好きだった。ちいばあちゃんという名はその当時、祖母の母も生きていて名の呼び方を考えたときに祖母の母より若いということで、小さいおばあちゃん「ちいばあちゃん」と呼んでいた。共働きの両親であった私にとって祖母の存在はとても大きなものだった。「ちいばあちゃん、あなたはあの頃のこと覚えていますか。」

中学生になり、祖母とのかかわりが一気に減った。部活をやっていたこともあり、小学生の頃よりも家に帰るのがすごく遅くなるからだ。祖母の優しい笑顔を目にしなくなったのはその頃であろう。

食べたこと自体を忘れる、日付が分からぬ、怒りっぽい、表情が変わる、寝てばかり……そう、祖母は認知症と診断された。正直言って、信じられなかった。あんなに優しく、大好きだったちいばあちゃんが世間で言われている「ボケ」になってしまったという事実を。演技しているんだ、嘘だ、私は

そのように思うことで心を落ち着かせていた。

祖母が認知症になったことで、様々なことを考えさせられた。私はまず第一に感謝の気持ちは伝えられるときに伝えなければならぬという事を思った。次に何があっても家族は家族であるということ。

一つ目は、今までは「やってもらえてあたりまえ」という考えをもっていた、素直に「ありがとう」という言葉が言えていなかったということだ。相手が家族、友人、先輩、先生など誰でもあっても伝えたい。二つ目は、家族に何があっても助けることができるのも家族、支えてあげることができるのも家族であることを忘れてはいけない。これから先、私の家族に何が起ころうと、関係ないなどと勝手な考えを捨て、頼られる存在にならなければならないと思う。

そして、私は自分の未熟さに驚いた。どれだけ人に頼って生きてきたのだろう、と悔しさというより惨めさを感じた。「自分一人では何もできない」という考えが浮かんだ。祖母ができなくなったことを私がサポートできない。それは単に、私が誰かに頼りすぎて生活してきたからである。

自立心のなさに胸を痛めた。ガスコンロがつけれない、洗濯物がたためない、カーテンの閉め忘れ、など考えれば何個もある。それは全て祖母がやっていたことだ。こう考えれば祖母の

存在は大きかったのだと思う。

それと同時に、父親と母親もたいへんであることに気づいた。小学生の頃、「なんでママいないんだろう。」と感じて寂しい思いをしたことがあった。その時はただ、なぜ母親が家にいないのか、とは考えることができなかった。私たちのために必死に働いていたのである。祖母のおかげで今まであたりまえに思われていたことを再確認した。

施設へ入れずに、家で祖母の面倒を見ることを私はものすごく拒否した。一緒に生活なんてできるわけない。でもふと思った。あれだけ家族のために頑張ってきた祖母のことを放置してしまうのか。感謝の気持ちも言えない。恩返しの意味も込めて、少しでも手助けしたいと思った。

祖母は週に三回程、デイサービスを利用してはいる。デイサービスとは認知症やお年寄りの人などを対象として、半日面倒をみてもらえるというものがある。

デイの人が朝、迎えに来る。「行かないので。」と叫ぶ祖母の姿。それを「大丈夫だよ。」と優しい声をかけて車に乗せるデイの人。私はこの仕事を日々尊敬している。どんなことを言われても、笑顔で受けとる。なんて忍耐強いのだろうと思った。しかし、あれだけ行きたくないと言っていたデイから帰ってくると、きちんと「ありがとう」ございました。またお願いします。」と

お礼を言う祖母がいる。そう笑顔で言う祖母の姿はなぜだか輝いて見えるのだ。

「これね、デイで作ってきたんだよ。」と私に工作を見せてきた。祖母はデイで、カレンダーやクリスマスツリーや様々なものを作って持ち帰ってくる。機嫌の良いときだと私にそれを自慢してくる。少し前までは、うっとうしいと感じていたが、最近では「すごいね。一人で作ったの。」などと会話をするようになっている。

このような情景はなんだか懐かしみがある。なぜなら、私も小学校低学年のとき、祖母に学校で作ってきたものをよく自慢していた。その関係が変化しただけ、と考えるのには時間がかかった。でも今では、祖母の笑顔が見られるだけで嬉しいと思う。あの頃を思い出すようにで初心に戻る気がするのだ。

改めて人の笑顔とはすごいものなのだと感じた。だからこそ、家の中を「笑顔」であふれる場所にしたいと深く感じた。何かをやってもらって笑顔でありがとう。あたりまえのことをあたりまえにするだけでいいと思う。

「あなたにとって、家族とは何ですか。」そういう質問をされたとき、みなさんはどのように答えますか。私は自信をもって答えることができる。「かけがえのないもの。」と。一見なんて簡単な答えなんだろう、と思う人もいるだろう。でも、何にも代わりとなるもの

がないものが「家族」である。

高校一年生になり、自立心をより高めていかなければならない時期となってきた。家族に頼らず生きていかなければならない。自分でできることはやる。

「ちいばあちゃん、あなたのおかげでたくさんのお話を学べました。ありがとうございます。」この感謝の気持ちが届くことはきつとないだろう。だから、私はこれからも祖母の助けとなることで感謝を伝えたい。家族として、一人の人間として支えられる人でなく支える人として生きていきたい。

●佳作●

「家族」

愛知県立津島高等学校

三年 脇田 綾子



みなさんにとって、「家族」とは何ですか？ どのような存在ですか？ 私は、この三稜会懸賞論文を通して、「家族」とは何かということについて、深く考えてみました。

私は、「家族」とは、自分を無条件で理解しようとしてくれる人たちの集まりであり、ありのままの自分を受けとめてくれる、かけがいのない存在だと思っています。そして、どんなに辛くて苦

しい思いをしたとしても、家に帰れば、「おかえり」と言ってくれ、歓迎、安心感を与えてくれるのだと思います。こう考えることができるまでに、さまざまな経験をし、たくさんの方のことを考えました。

私の家族は、父・母・祖母・そして私の四大家族です。これだけ言えば、ごく普通にある家族なのですが、私の家庭環境は、それほど恵まれているものではありません。私の母は、私が小学生の時に、くも膜下出血という脳の病気で倒れ、一命は取り止めたものの、寝たきり状態になってしまいました。

母が倒れた当時、私は小学校六年生でした。その頃の私は、とても寂しがりやで、いつも母にベッタリでした。しかし、突然母が倒れてしまい、寂しくて寂しくてたまらなくて、毎日のように泣いていたのを今でも覚えています。そんな時に、とても心配し、気を遣ってくれたのが、父や祖母でした。特に父は、母の医療費や家族の生活費、私の教育費など、たくさんのお金を稼がなくてはならなかったし、母の看病のために病院へ通わなくてはならなくて、本当に大変だったと思います。しかし、父は一言も弱音を吐かずに一生懸命働いてくれました。そして、祖母は、母が倒れたために、家事をすべてやらなくてはならなくなってしまい、とても忙しかっただろうし、苦しい家計の中でうまくやりくりするのに本当

に苦労したと思います。そんな中で、祖母も、母のために病院に度々足を運び、協力してくれました。これだけでも、本当に感謝していますが、他にもいくつか感謝していることがあります。

一つめに、私は、幼少時代、とても体が弱く、すぐに熱を出していました。そんな私を母は、体が強くなるような幼稚園を探し、裸教育という教育方針のある幼稚園に入れてくれました。そのおかげで、入園当初は度々休むことがありましたが、年長さんになる頃には、ほとんど休まなくなり、小学校、中学校、高校は無遅刻、無欠席を継続することができています。

そして二つめに、私は、中学校、高校と吹奏楽部に所属していて、トロンボーンという楽器を自分で持っています。中学校の吹奏楽部に入部した時に、父が高いお金を払って買ってくれたのです。まだまだ家計は厳しかったはずなのに、父は、嫌な顔一つせず、「いいよ」と言って、買ってくれました。本当に嬉しくて、一生大切にしようと思いました。

三つめに、私が高校受験や大学受験、定期テストの勉強を夜遅くまでやっていく時、ずっと電気がついていて寝づらかったはずなのに、文句一つ言わずにいてくれたり、たくさん気を遣ってくれました。そんな温かい協力があったおかげで、私は、中学校一、二年生の成績では無謀であった志望高校に合

格することができたし、津島高校に入學して、かけがえのない仲間をつくることができました。

その他にも、小さい頃、おもちゃをたくさん買ってくれたり、高校三年間、お弁当を作ってくれたりしました。

こんなに、家族に感謝をすることがたくさんあるのに、家族に迷惑をかけてしまったことがあります。それは、中学生の時です。私は、部活やクラスの友達と、あることをきっかけに喧嘩をしてしまい、先生や親を巻き込んだトラブルを起こしてしまいました。その時、うまく事が進まなくて精神的に不安定になったり、人を信じられなくなったりして、自分自身が嫌になり、その鬱憤を晴らすかのように、家族にやつあたりしてしまいました。用事もないのに夜遅く帰ってみたり、学校のない日に部屋に閉じこもってしまったりと、本当にたくさんの迷惑をかけてしまいました。しかし、そんな私をしっかりと受けとめ、支えてくれたのも、やはり家族でした。どんなに辛く、苦しくても、いつも絶対に「ただいま」と迎えてくれる家族がいるんだと思うと、本当に心強く、また頑張ろうという気持ちにしてくれました。

それから私は、高校に入學し、友達に恵まれ、穏やかな生活を送っています。大学受験にも少しゆとりができた今、家族のために何をしてあげられるかを考え、少しでも手伝いをするよう

に努力しています。

突然ですが、坂本九さんの「心の瞳」という歌に、こんな歌詞があります。「長い年月を歩き疲れたら、微笑投げかけて手をさしのべて、いたわり合えたら、愛の深さ、時の重さ、何も言わず分かり合える」。私は、この歌詞を読んだ時、私も大切な家族といたわり合い、家族が自分にとっての一番の良き理解者でずっとあってほしいなと思いました。

世間では、家族の言うことや態度が気に入らなくて、口をきかなかったり、心を閉ざしてしまっている子供がたくさんいると思います。確かに、家族に自分のことを言われるのは、自分の考えが否定されているような気がして嫌だと思うこともあると思います。しかし、家族が自分に言ってくれるということは、言い換えれば、家族が自分のことを見てくれているということだと思えます。それって、本当に幸せなことだと思えます。だからもし、家族に心を閉ざしてしまったり、もしくは、誰にも言えなくて一人で悩みを抱え込んでいる人がいるとしたら、一度、家族に話してみてもいいです。家族のほとんどは、自分より長く生き、人生経験が豊富だと思うし、毎日一緒に生活しているのだから、自分のことを知らないわけがないと思います。だから、きつと何か解決方法を導き出してくれると思います。

今回、この三稜会懸賞論文をきっかけに、「家族」について深く考えたこと

で、自分にとっての「家族」とはかけがえのない存在だということをふたたび思い知らされたし、感謝してもしきれないほどの「感謝」があるということが分かって、本当によかったと思います。これからは、今以上に家族を大切にし、協力し合っていききたいと思います。

●佳作●

「私の家族」

愛知県立佐織工業高等学校

一年 小久保美



私の家族は、父、母、兄、妹、私の五人家族です。私の家族を紹介します。私の父は三十九歳とちよつと若い父です。職業は一般的にいう会社員です。父は家の事には熱く頼りがいのある家族思いの父ですが他人には厳しいという一面を持つ少し変わった所がある父です。父に欲しいものがあると相談すると、第一声、必ず駄目だ！と返ってきます。その言葉は私達は受け止めず、時間が経つのを待ちます。父はきちんとその事に対して考えてくれて必ず私達の思いが通るようにしてくれます。偏屈な所もありますが、私達には優しい父です。

母は朝から四人分のお弁当を作り、仕事に出掛け、仕事から帰っても夕食

の支度、洗濯、塾の送り迎えと寝るまで忙しいです。母には何でも話が出来、私達には良き相談相手です。学校での出来事、悩み事、大した事でなくても私達兄妹は母に毎日いろいろな事を聞いてもらいます。先日は妹が母に一番に、男の子に告白された事を話していました。

兄は私の通う工業高校の先輩で今年の夏には就職も決まり、残りの高校生活を課題研究に力を入れ、岐阜大会、大阪大会と参加していました。今は学校が終わると車校へ、と毎日遅くまで頑張っています。家での兄は長男という意識が強く、十八歳なのに古風な人間だと思っています。

妹は来年の春には高校生になる只今受験生真っ最中です。志望校に悩める妹ですが、私から見ると淡々と生きていていつも平和そうで幸せな妹だと思っています。

最後に私の紹介です。私の通う高校は男子の中に全校で女子が七人という工業高校で、建築科で測量など建築について学び、かなづちやノコギリを扱う高校一年生です。私の家での様子は、自分ではいい娘かと思うのですが、兄妹の中では一番気が強くわがままだと言われます。

私の家族は時には喧嘩もありますが、普通からいえば仲が良い家族だと思います。

私の家族はいつも皆リビングにいて、母が二階に上がらないというまで一

緒にいます。ダイニングで勉強する妹、ソファでゲームをする兄、テレビを見る父、キッチンに立つ母、携帯を触る私、こんな光景が毎晩の私の家族です。こんな平和そうな時間の中に我が家の夜の様子は、母の号令で家族全員が働き出します。母の号令は、「洗濯が出来たよ」の一声です。この一声で洗濯を干す人や空いている人は母の指示に従い皆で家の事を手伝います。こんな光景が毎日一日の終わりにやってきます。誰か一人でも欠けていると携帯で呼び出されます。誰も文句一つ言わず母の号令で動き始めます。母は「みんな平等」「自分たちの事だから」「手伝いではなく自分の身の回りの事」だといいます。思えば私達兄妹は小さい時から洗濯物を干したりタオルを畳んだりしていました。祖母が家に来ていると私達に「みんな偉いね」と言ってくれたのを覚えています。私達の生活の中では母の号令は当たり前だと思っていました。でも母は、「おばあちゃんの家を一人でやっていたんだよ」と言います。母は誰かがやってくれると思ってはいけない、みんなで協力するのが家族だとよく言います。母は手伝いが終わった後には、「ありがと」と言ってくれます。これが我が家の光景です。私も母親になった時には母と同じ考えで旦那さんや子供に号令を掛けるのかわかりませんが、母の号令は生活の中で家族がバラバラの事をしても家族が一つになる良い時間だと

思います。

我が家の今年の一年は、私の高校入試に始まり、兄の就職試験、来年の妹の高校入試に向けて父も母もいつも私達の事を話しています。私の両親は子供だからと隠し事がないように私は感じています。家族に問題があっても何でもオープンで私達にも気持ち、考え、感じた事を伝え、私達の考えも聞き入れてくれます。時には親子で戦わなければいけない時でも父も母も真剣に向き合ってくれます。よくある反抗期、私にもありました。今、思えば母とも笑い話ではなせるのですが、その時期は父や母を相手に戦いました。私の両親は常に対等で強く頑張っていたと思います。

恋愛話も家族に隠していたって良い恋は出来ないと言います。そんな言葉に私達兄妹は何故か恋愛話も母に話してしまい母は家族みんなに話してしまいます。でも家族みんなが知る事で隠しているより楽に話が出来ると遊びに行く時も堂々と正直に出掛けられ、着て行く服なども相談出来、とても良い事だと思っています。私の両親は、私達と対等に接してくれている事を感じます。

私達兄妹は時には喧嘩もしますが普段は仲が良いと思います。私の両親の作ってきた家族はいつも一緒に何でもオープンという楽に居られる場所があるから、私達兄妹も自然にリビングに集まり、一緒に居られるのだと思います。

す。こんな私の両親はよく、おじいちゃん、おばあちゃんの事は一番に大切に

にしてねと言います。母がおかずを大量に作ると父が両方の祖父母の家へ持っていく事が度々あります。両親の姿を見ている私達は両親の教えの通りとても良い孫達でいると思います。私は、こんな家族が大好きです。私も家族を持ったときには私達家族が理想の家族です。嫁姑の戦い、と世の中ではありますが、我が家には無いように思います。家族だから喧嘩をしたらつまらないと母は言います。お互い気を遣う事も時には必要で、家の中が明るくみんな笑顔でいられるのが幸せなんだと私は思います。母を一番に思う父、子供を一番に思う母、そしていつも一緒にいてくれる兄妹、私もこんな団結した明るい家庭を作れたらと今回、この作文を書く事で考える事が出来ました。家族五人揃って共に生活して、笑える時も泣ける時もいろいろな時があり、今まで普通に過ごしてきた時間ですが、改めて私達に、父や母の作ってきた家族、私の家族は最高の家族だと思いました。家族のありがたみ、大切さなど考える事が出来ました。

私達兄妹はこれから先も母の号令と共に一緒に洗濯物を干しながら一日あった事を話し一日が終わるのだと思います。あたりまえの時間かもしれないですが、この時間を大切にしていきたいです。今度は私が「洗濯出来たよ」と母より先に号令を掛けてみようと思います。

ます。

私にとって家族はかけがえのない大切な存在です。

私達兄妹はあまり勉強は出来るほうではないですが、家族への思いやりは両親から私達へ自然と受け継がれているのだと感じました。父も母も、私達と同様に祖父母から大切に育ててもらったのだと思います。

私は、これから先今まで以上に家族を大切にしていく事を約束します。

【審査委員長 選評】

作家 稲葉 真弓

(津島高校20回生)

◎最優秀賞「家族」布田章乃

母と私、姉と弟の四大家族のなんという力強い絆。「自分で生きる力」を身に付けることが、家族全体の幸せに通じることを発見した布田さんは、すばらしい。ことにお母さんの存在がひかっていますね。この素敵なお母さんを中心に回っている宇宙が見えるようです。でもいまは、「自立」した布田さん自身が、自力で回る惑星になっているはず。留学など、苦労した体験や努力の過程が生きている布田さんの「負けない力」と、それを惜しみなく後押ししてくれた家族の力に乾杯です！

◎優秀賞「家族」平井菜々美

「家族ってなんだろう」と一生懸命考え、平井さんが導き出したのが「快適な基地」という言葉でした。父母と姉と私の四人が、一番大切にしているのはコミュニケーション。ことに食事の際には携帯電話は絶対に使わない、触れないと決めていること。こうした小さな約束事や節度があふれていました。一緒に過ごす時間の大切さを伝える論文です。どの家族もこうだといいのに、とつい思ってしまった。

◎優秀賞「ちいばあちゃん」後藤由樹

高齢の祖母が認知症になり、あんなに濃密だった触れ合いが段々減っていく。それをまのあたりにしつつ、大切なことを元氣なときに伝えられなかった自分を悔やむ「私」。「ちいばあちゃん」にやってもらっていたことを、あたりまえのように思っていたけれどそれはちっともあたりまえのことではなく、「私」を支えるなにかだったという「気付き」が、とてもよかったです。支え、支えられながら家族はあるのだという、その思いを大切にしてください。



稲葉真弓先生との対談を終えて

平成二十三年年度最優秀賞

津島高校三年 佐藤千玖紗

この度はこのような機会を頂き、ありがとうございました。本当によい経験をさせていただきました。先生にお会いする前は、とても緊張していた私でしたが、先生は笑顔で私を迎えてくださったので、幾分か緊張も和らぎ、楽しく対談を始めさせていただきました。対談では、津島高校のことや、将来の希望のことなど、多岐にわたる話題でお話をさせていただきましたが、その中でも稲葉先生のお仕事について教えていただいた時に先生がおっしゃっていた、ひとつの物事を表現するにもたくさんの言葉の遣い方がある、というお話がとても印象に残っています。おそらくこれは、言葉上だけでの問題ではなく、物事を多様な角度から促えてみる、というものの見方自体に関わるような考え方であり、深く感じるお話でした。稲葉先生との対談という、この素晴らしい経験は、私の今後の人生を豊かにするよい糧となりました。本当にありがとうございました。（平成二十五年六月一日対談）



最終審査の様子と稲葉審査委員長と昨年の最優秀賞受賞者・佐藤千玖紗さんとの対談の様子がクローバーTVで放映されました。

また、最優秀賞と優秀賞の受賞者本人による朗読が、エフエムななみ 77.3 MHzにて8月10日(土)～8月16日(金)の間、毎日15時より放送されます。

稲葉真弓文学賞・記念講演会

来年度より懸賞論文のさらなる充実を目指し、審査委員長である作家・稲葉真弓さん（高20回）の名をいただき、『稲葉真弓文学賞・三稜会懸賞論文』とし、これを記念して右のとおり講演会を開催します。

日 時 平成25年 9 月 3 日(火) 10時30分～
場 所 津島市文化会館 大ホール
演 題 「私の津島高校 裏街道をゆく」
講 演 作家 稲 葉 真 弓 さん

*聴講希望者は、先着50名招待。【8月20日(火) 必着】
FAXにて津島高校内三稜会事務局へお申込みください。

FAX 0567 (28) 7196

下記事項を必ずご記入ください。折り返しご案内をFAXで差し上げます。 ① お名前 ② 回生または卒業年度 ③ FAX番号

稲葉真弓さんプロフィール

作家・詩人。日本大学芸術学部文芸学科教授。
愛知県立津島高等学校卒業（高20回）。



『蒼い影の傷みを』（1973）で婦人公論女流新人賞受賞。その後、『エンドレス・ワルツ』（1992）で女流文学賞、『声の娼婦』（1995）で平林たい子文学賞、『海松（みる）』で2008年に川端康成文学賞、2010年に芸術選奨文部科学大臣賞、『半島へ』（2011）で谷崎潤一郎文学賞及び親鸞賞（2012）受賞など、多くの受賞歴をもつ。『エンドレス・ワルツ』は映画化もされている（1995）。

また、いじめや登校拒否などをテーマにした映画『かかしの旅』の原作を手掛けるなど、その活動は多岐にわたる。

その他の主な著書
ホテルザンビア（1980）
琥珀の町（1991）
ミーのいない朝（1999）
午後の蜜箱（2003）
千年の恋人たち（2010）
他多数